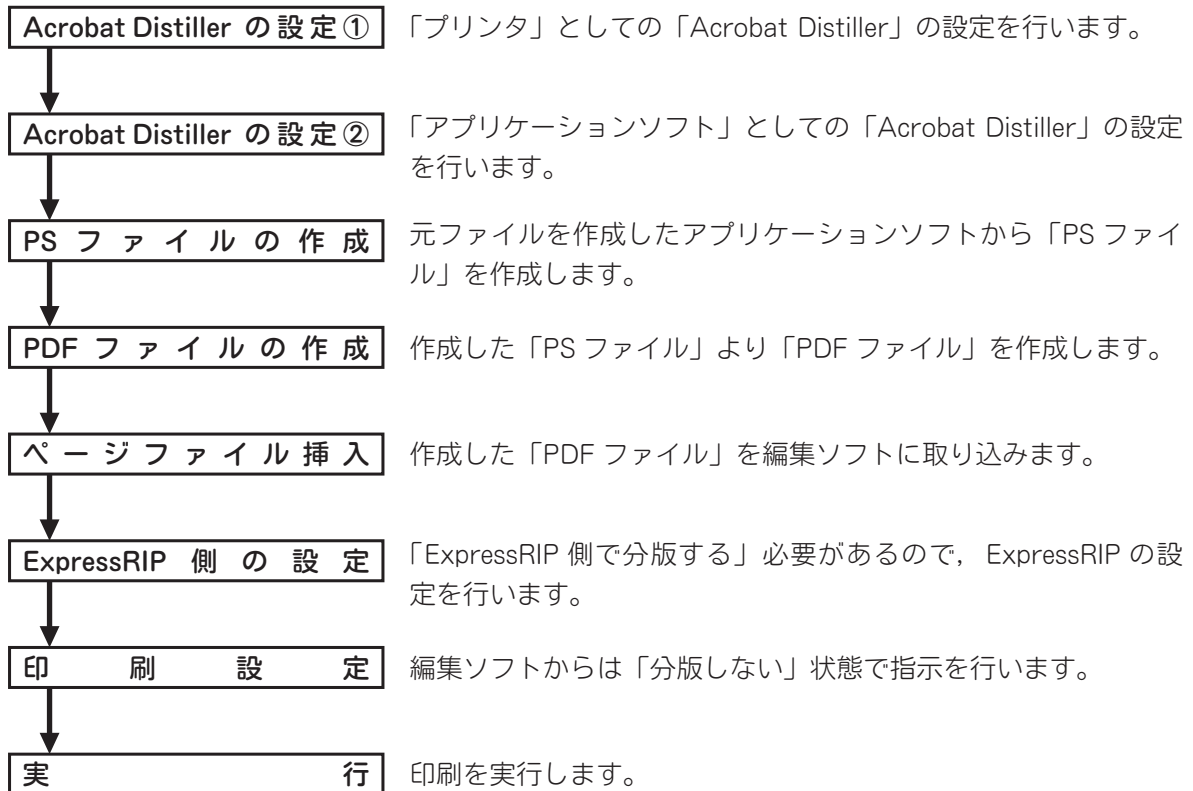


PDF ファイル挿入編

1. PDF ファイル運用の手順

編集ソフトに PDF ファイルを取り込んで出力する手順は、以下の通りです。



要 点

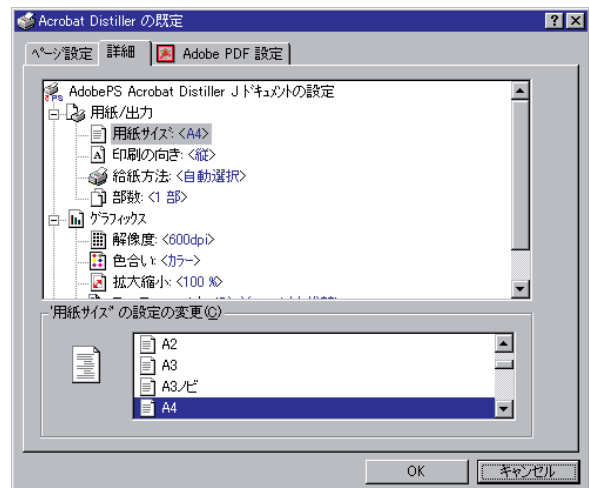
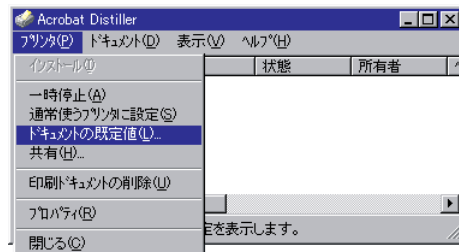
- PDF ファイルを作成する場合、必ず、一度「PS ファイル」を作成し、その「PS ファイル」を元に「PDF ファイル」を作成してください。
- 「プリンタで Acrobat Distiller を選択して直接 PDF ファイルを作成」「PDF Maker を使用しての PDF ファイル作成」は、行わないようにしてください。（安定した運用ができません）
- 「PDF ファイル」を編集ソフトに取り込んで ExpressRIP から出力する場合は、必ず「ExpressRIP 側で分版」するようにしてください。

2. Acrobat Distiller (プリンタ) の設定

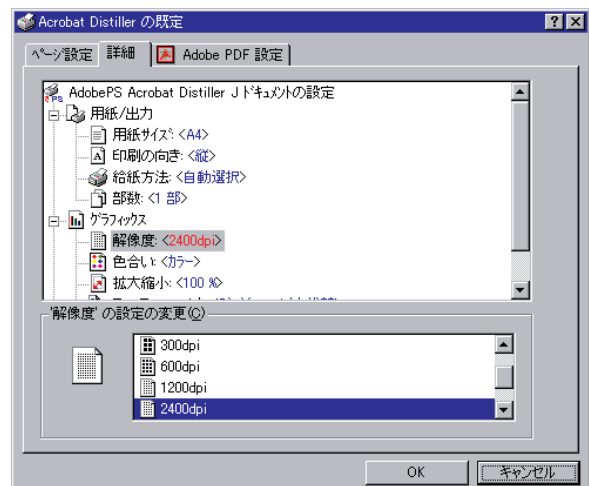
PDF ファイルを作成する場合は、一度「PS ファイル」を作成する必要があります。このとき、プリンタとして「Acrobat Distiller」を選択する必要があります。この場合「Acrobat Distiller」の設定内容は、以下の通りです。

2.1 「ドキュメントの既定値」の設定

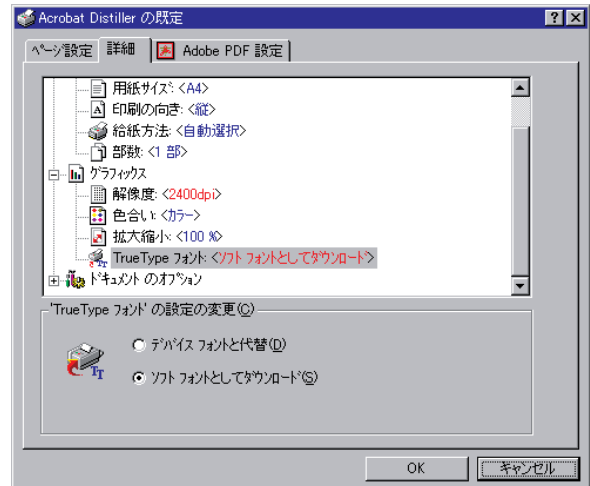
- ①「Acrobat Distiller」のウィンドウで、メニュー「プリンタ」→「ドキュメントの既定値」を選択します。



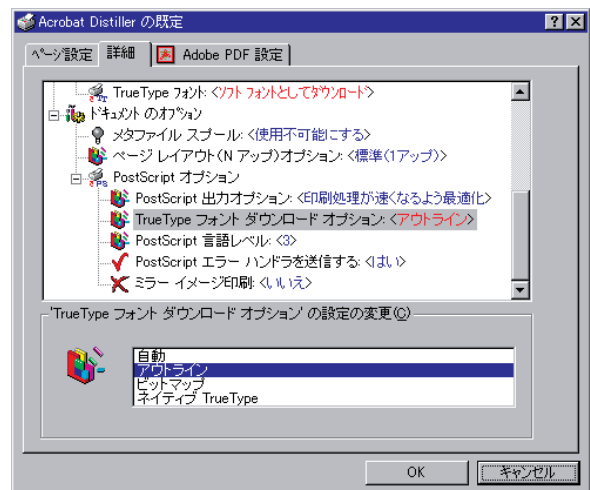
- ②「詳細」タグを選択し、「グラフィックス」→「解像度」を選択し、「最終出力の解像度」を選択します。



- ③「グラフィックス」→「TrueType フォント」を選択し、「ソフトフォントとしてダウンロード」を選択します。



- ④「ドキュメントのオプション」→「PostScript オプション」→「TrueType フォントダウンロードオプション」を選択し、「アウトライン」を選択します。



要点

- この項目は、TrueType フォントの形式を設定します。編集ソフトに取り込んで出力する場合は、「Type 1」が適しています。そのため、必ず「アウトライン」を選択してください。

⑤「Adobe PDF 設定」タグを選択し、必要な項目を設定します。

【一般：ジョブオプション】

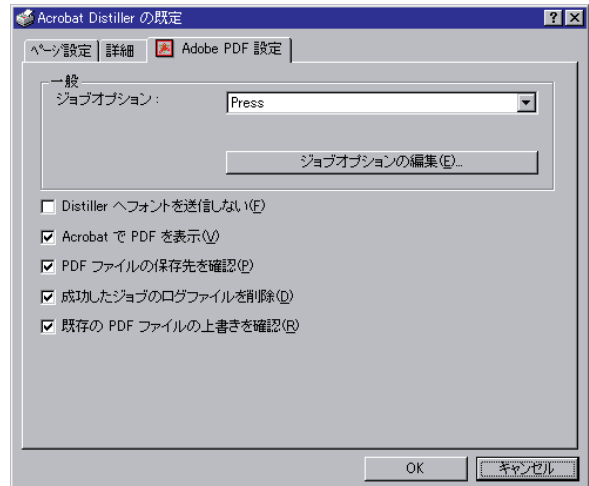
アプリケーションソフト側で「プリンタ：Acrobat Distiller」を選択して「直接 PDF ファイルを作成する場合」に有効な設定です。PS ファイル経由で PDF ファイルを作成する場合、設定する必要はありません。

【Distiller ヘフォントを送信しない】

この項目のチェックは、必ず外してください。チェックを入れたままの場合、エラーが表示されて PDF ファイルが作成できません。

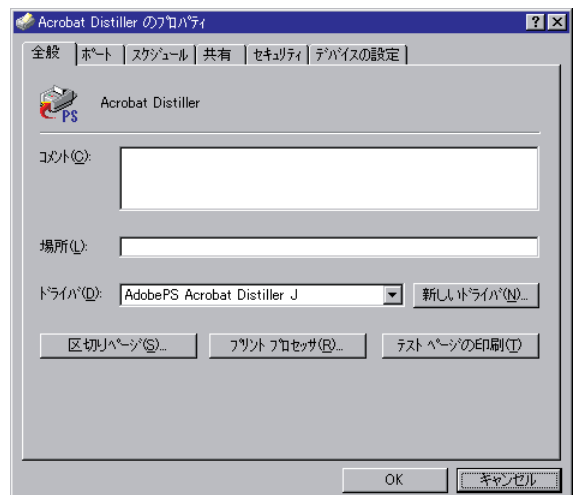
【既存の PDF ファイルの上書きを確認】

デフォルトではチェックされていないので、必要に応じてチェックを行ってください。

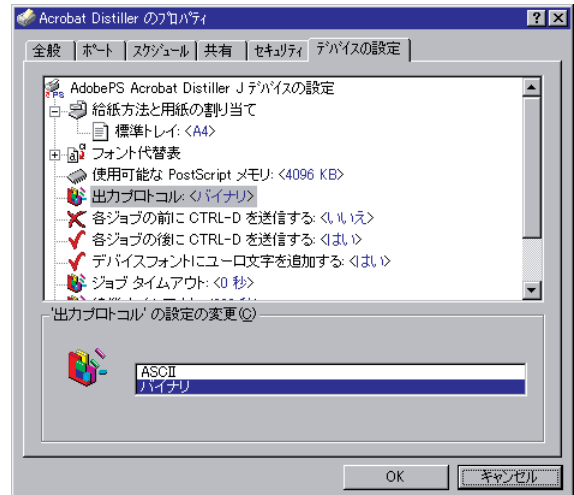


2.2 「プロパティ」の設定

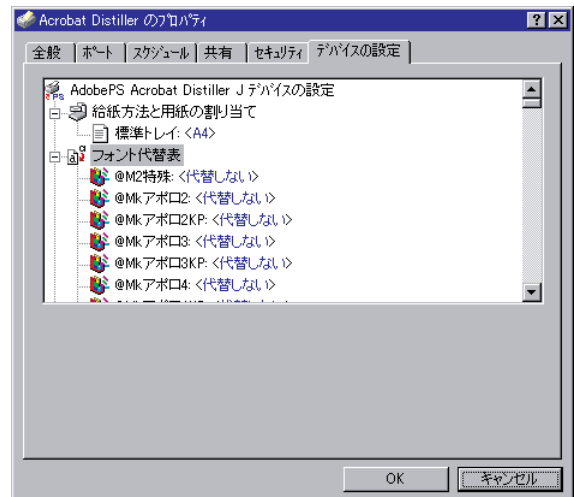
①「Acrobat Distiller」のウィンドウで、メニュー「プリンタ」→「プロパティ」を選択します。



②「デバイスの設定」タグを選択し、「出力プロトコル」を選択し、「バイナリ」を選択します。



③「デバイスの設定」タグを選択し、「フォント代替表」で、すべてのフォントに対して「代替しない」を設定します。



④以上で、「Acrobat Distiller (プリンタ)」の設定は終了です。

要点

- ここで説明した設定は、安定して運用できる設定の一例ですので、使用目的に合わせて変更してもらって構いません。

3. Acrobat Distiller (アプリケーション) の設定

Acrobat Distiller の設定は、ジョブオプションの「Press」の設定を変更して使用することをお奨めいたします。設定内容は、以下の通りです。

3.1 「一般」タグの設定

① ファイルオプション

【互換性のある形式】

作成する PDF ファイルの形式を「Acrobat3.0 (PDF1.2)」「Acrobat4.0 (PDF1.3)」「Acrobat 5.0 (PDF1.4)」から選択します。通常は「Acrobat5.0 (PDF1.4)」を選択します。

【Web 表示用に最適化】

このボタンをチェックすると、Web からダウンロードする場合に適した状態の PDF ファイルを作成します。通常は、チェックしてください。

【サムネールの埋め込み】

このボタンをチェックすると、PDF ファイルの各ページのサムネールプレビューが作成されます。必要に応じてチェックしてください。

【ページの自動回転】

ページを回転させた PDF ファイルを作成したい場合にチェックします。(詳細は Acrobat のマニュアルを参照してください)

【ページ範囲】

PDF ファイルに変換するページを「すべて」「開始/終了」から選択します。

【解像度】

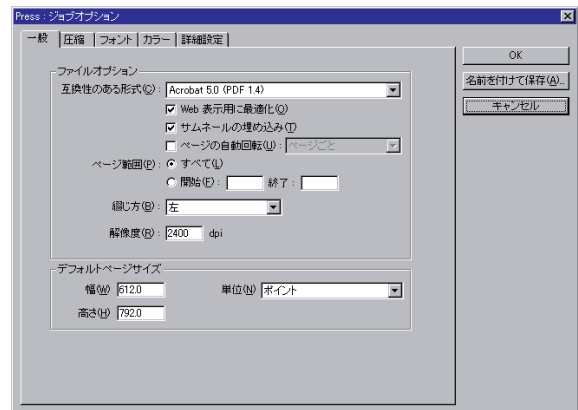
通常は、デフォルトのままにしておいてください。(詳細は Acrobat のマニュアルを参照してください)

【綴じ方】

作成した PDF ファイルを Acrobat 上で見開き状態で見える場合の状態を設定します。この項目は、必要に応じて設定してください。

② デフォルトページサイズ

特に変更する必要はありません。

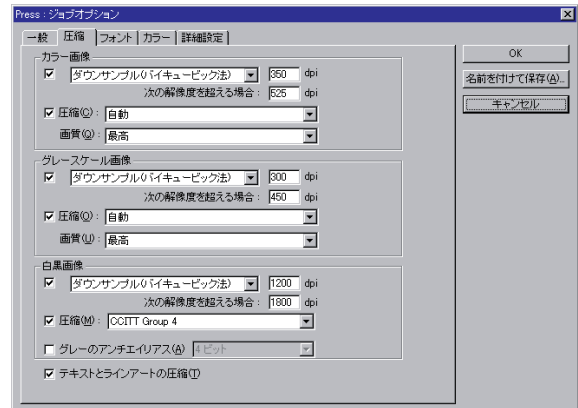


要点

- PDF ファイルを取り込む場合、編集ソフト側がプレビュー画像を作成しますので、「サムネール」が付いていなくても、ページファイル挿入に影響はありません。

3.2 「圧縮」タグの設定

右図のような設定を推奨します。ただし、使用している画像や目的によっては、必ずしもこの設定が最適とは限りませんので、必要に応じて設定し直してください。各項目の詳細については、Acrobat のマニュアルを参照してください。



要点

- 画像の圧縮は、PDF ファイルを出力する場合の品質に大きく影響を与える項目です。PDF ファイルの使用目的に合わせて適切な設定を行ってください。

3.3 「フォント」タグの設定

①すべてのフォントを埋め込む

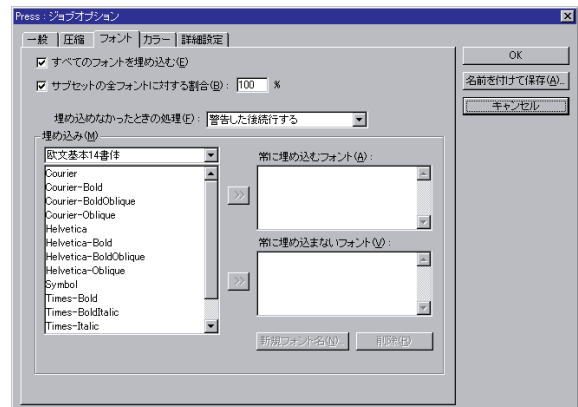
この項目は、必ずチェックしてください。

②サブセットの全フォントに対する割合

「100%」に設定してください。

③埋め込めなかったときの処理

「無視する」「警告した後続行する」「ジョブをキャンセルする」から選択します。通常は「警告した後続行する」を選択してください。



3.4 「カラー」タグの設定

① カラー設定

【設定ファイル】

「なし」を選択してください。

【カラーマネージメントポリシー】

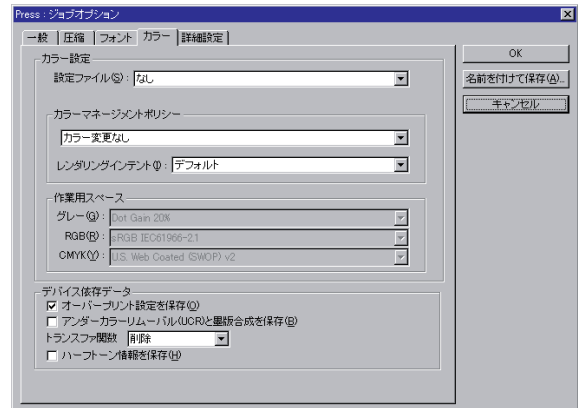
「カラー変更なし」を選択してください。

【レンダリングインテント】

「デフォルト」を選択してください。

【作業用スペース】

「カラーマネージメントポリシー」で「カラー変更なし」を選択しているため、この項目は設定できません。



② デバイス依存データ

【オーバープリント設定を保存】

元ファイルを作成したアプリケーションソフト側で設定した「オーバープリント」の設定をPDF ファイルに反映させるかどうかを設定します。通常はチェックしてください。

【アンダーカラーリムーバル (UCR) と墨版合成を保存】

通常は、RIP 側で設定する内容なので、チェックしないでください。

【トランスファ関数】

通常は、RIP 側で設定する内容なので、「削除」を選択してください。

【ハーフトーン情報を保存】

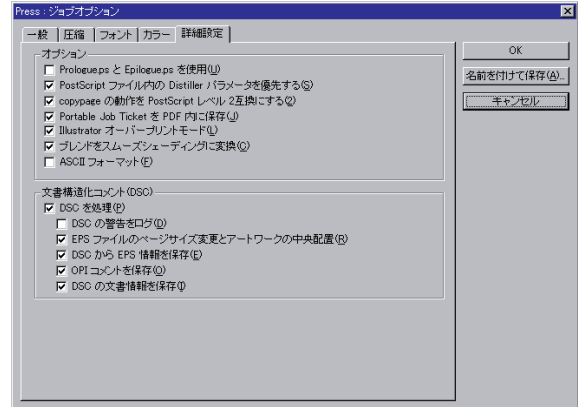
通常は、RIP 側で設定する内容なので、チェックしないでください。

要点

- ・「オプション」の各項目は、既にカラーマネージメントを使用されている場合など、使用目的に合わせて変更（チェック）してもらって構いません。

3.5 「詳細設定」タグの設定

この内容は、変更しないでください。



要点

- ここで説明した設定は、安定して運用できる設定の一例ですので、使用目的に合わせて変更してもらって構いません。